

特定非営利活動法人チャイルドラインみやぎ 代表理事 小林純子
 (災害子ども支援ネットワークみやぎ 代表世話人)

問題点	解決に向けての提言
<p>1. 公共施設はある程度復興が進んでいるが、職員の心のケアが進んでいない。</p> <p>そのための研修を行う時間が取れない、教員などの異動で被災体験が異なる人が一緒に仕事をする困難を感じている。</p>	<p>①保育士、教員等の補助者を配置する。 Cf. 被災者を託児スタッフ・子ども支援者に養成など</p> <p>②補助者の養成、スキルアップ体制を整備する。 ③勤務の関係で、一斉研修が難しい。勤務先に近いところで、数回にわたって同じ研修を行う必要がある。</p>
<p>2. 子ども、親の心のケアが不十分である。</p> <p>学校にスクールカウンセラーを配置しているが、常駐ではないため話したい時に話せない。カウンセラーには話せないという子どもも多い。</p> <p>親もスクールカウンセラーに相談してよいことになっているが、なかなか行けないという声もある。</p> <p>なぜ話せないのか、一言でもしょうがない、心配をかける、はずかしい、おおごとになる。</p>	<p>①子どもの居場所づくり、テロン活動をしている人など、身近な人に話をすることが多いので、どんな話でも受け止め、必要な支援につなぐために、研修などをしてスキルアップを図る。</p> <p>②自分から出かけて行って話せない人に対しては、訪問支援も必要。行政のマンパワーが不足しているため、支援員などをスキルアップして携わってもらうなどの工夫を。みなし仮設支援のために行政と団体の連携を行う。</p> <p>③子どもが復興計画にかかわり、まちの未来を考え、主体的に行動できる体制を作る。このことで、子どもが自信をもつことができる。</p>
<p>3. 支援者のケアが不十分である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年たっても、現状が回復しない徒労感。 ・外部からの支援NGO・NPOが撤退。資金、活動場所、人材の不足。引き継ぐ仕事が大。 ・支援対象から頼られる度合いが増加。 <p>以上のような状況で追い詰められている支援者・支援団体が増加している。</p>	<p>①NPOがスタッフを雇用して継続的な支援ができるだけの財源を確保する。 「被災児童やその家族等を支援するための相談・援助事業費補助金」は現在100万円を限度としているが、必要と思われる事業には増額し、せめて事務局員1名を雇用できる金額にする。</p> <p>②沿岸部で活動している団体への支援を強化する。外部の人が行って相談にのるなどの支援が必要。</p> <p>Cf. 宮城県子ども支援会議地域会議、宮城県サポートセンター支援業務の活用。</p>
<p>4. 子ども虐待・暴力・性の問題が増加している。</p>	<p>①支援者が問題を見える研修を実施 ②学校や家庭への広報 ③子どもへの情報提供(相談先など) ④問題が起きた時にケース会議が開ける体制</p>

子どもの声つうしん



発行 特定非営利活動法人チャイルドラインみやぎ 2013年3月1日 <第5号>

チャイルドラインは、18歳までの子どもがかけられる電話です。1996年、イギリスのBBC放送局が、「子どもの虐待」をテーマにした番組を制作したのをきっかけにして誕生しました。日本でもこの電話をモデルに、各地で設置されるようになりました。宮城県では、1999年から準備が始められ、2001年10月に団体が設立、2002年3月から電話受付を始めました。

現在、全国のチャイルドラインが協力し合って、0120-99-7777で電話を受けています。2011年度には全国の子どもたちから799,713件のアクセスがありました。

2011年3月11日に東日本大震災が発生し、チャイルドラインみやぎは電話受付ができなくなり、7月に再開をしました。その間、全国のチャイルドラインで、被災地の子どもの電話を受け続けてくれました。

震災から2年を迎え、チャイルドラインのデータから見える被災地の子どもの状況を検証してみます。

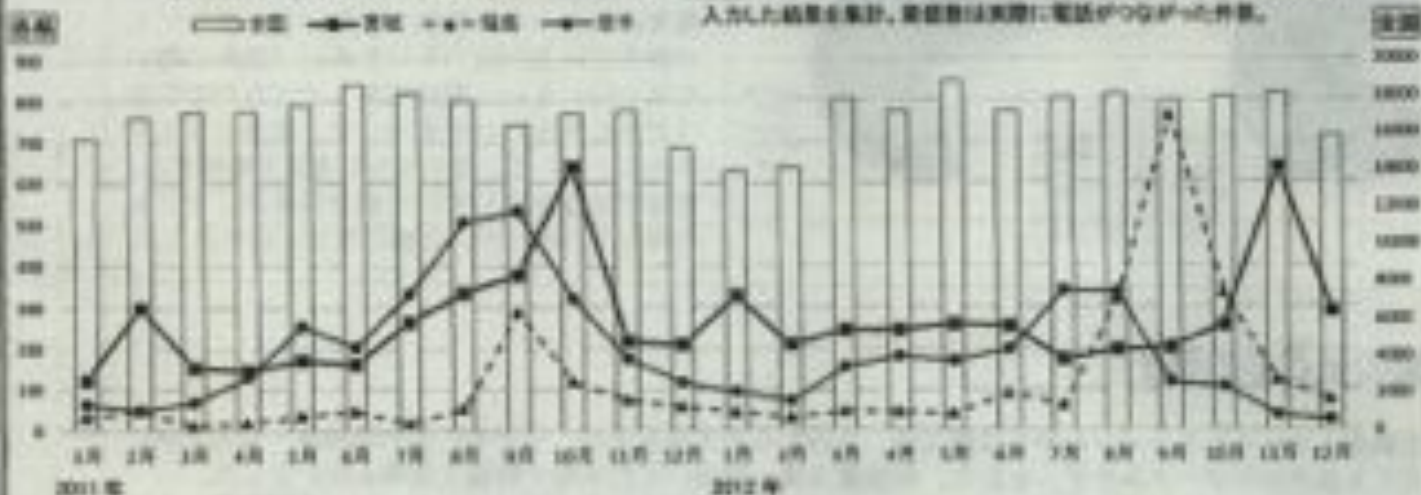
電話件数の推移

	2009年度	2010年度	2011年度
トラフィックデータ	725,301件	340,143件	799,713件
年間着信数	235,941件	247,282件	199,113件
1か月の平均着信数	19,662件	19,109件	16,593件
宮城県年間着信数	11,073件	10,512件	14,563件
前年度年間着信数	2,326件	1,802件	11,422件
福島県年間着信数	872件	1,295件	4,805件

トラフィックデータは、0120-99-7777への電話、NTTコミュニケーションズの提供するトラフィック調査ツールによりデータ取得。通話成立に至らなかった着信数も含む。

2011年4月～2012年12月着信数

※全国のチャイルドラインの通話の結果を、チャイルドラインデータベースに入力した結果を累計。着信数は実際に電話がつかった件数。



2011年度、全国の年間着信件数は減少しましたが、被災3県は増加しています。2011年7月から10月にかけてと、2012年6月から11月にかけての増加が著しいのは、チャイルドライン支援センターが被災3県に対してカード配布の支援を行ったことで増加したと考えられます。

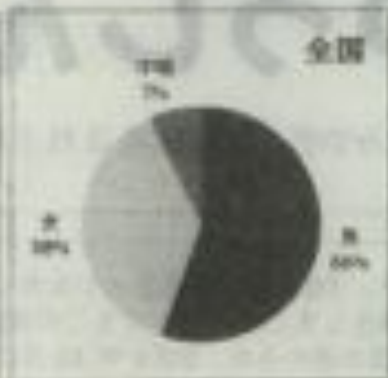
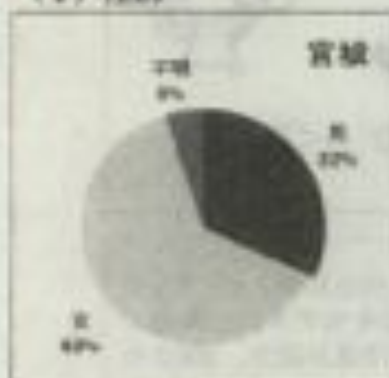
前手は全国と同様の傾向を示しています。沿岸部の津波被害は大きいものですが、電話の件数にはそれほど影響はなかったように見受けられます。

福島は、この時期にはまだ地元でチャイルドラインは無く広報ができずにいたため、件数はごく少なかったのですが、被災地としてカードが配られて、初めてチャイルドラインの存在を知った子どもがかけてきたようです。

宮城は震災があった3月からしばらくは毎月同じくらいの電話数でしたが、仮設住宅の入居が始まった頃から増加し始め、カード配布期に急上昇し、その後もコンスタントにかかり続け、2012年11月のカード配布時期に再び上昇しています。1～2月の増加は、進学などの関わりがかわっていると考えられます。

かけ手（子ども）プロフィール／2011年1～12月

(1) 性別



(1) 性別

チャイルドラインにかけでくる子どもの男女の割合は、いつも男子が多くなっている。前頁の「事例別」集計と合わせて分析すると、男の子は「性」に関する電話が多くを占めている。面と向かっては聞けないことを、誰が見えない電話だからこそ話することができる。しかし、その中でいつも感じるのは、男子は自分の体のことを学ぶ機会が少なく、誤った情報に振り回されているということだ。適切な性教育が望まれる。

(2) 年齢

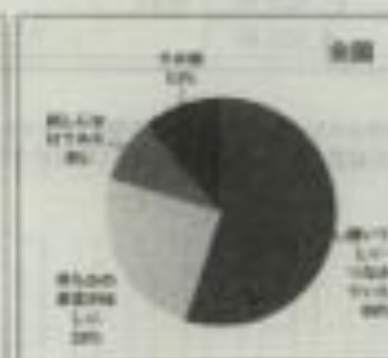
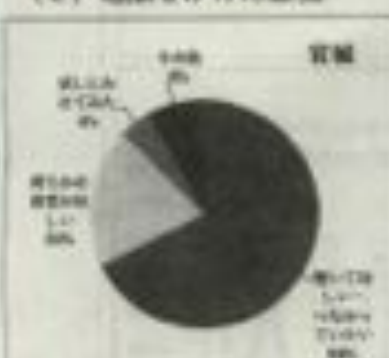


(2) 年齢

チャイルドラインでは、特別のことがない限り、子どもに対し、こちらから年齢を聞くことはしないため、年齢はあくまでも受け手の主観で記録している。

チャイルドラインが始まって10年が経過している。始めた当初は、小学生が半数ほどを占め、次いで中学生、高校生の順だったが、最近では、中学生以上が半数を占めている。小学生は主にいじめや友だち関係の話が多いが、学年が上がるにつれて問題は多様化、深刻化してきている。

(3) 電話をかけた動機



(3) 電話をかけた動機

チャイルドラインは、子どもの話を良く聞き、気持ちを受け止めるとともに、子どもが考え、どうするかを決めていくのに寄り添うという姿勢をとっている。ほとんどの場合は、現実にはなかなか解決できないが、自分一人で抱えているのはつらいため、「誰かに頼いてほしい」という電話だが、子どもの中には「どうしたらいいですか」と、性急に答えを求めたりもいる。話すうちに考えが整理され、自分で結論を出していく場合が多い。子どもの持っている「力」を感じることができる。

被災直後の子どもの様子

非営利活動法人チャイルドラインみやぎは震災後、全国からの支援を受け、子どもに関わる団体・個人と共に「災害子ども支援ネットワークみやぎ」を設立。直撃被災地へ出向いての支援や物資支援等も行いました。

また、仮設住宅を中心とする子どもたちの調査や支援者の研修などを行う「サポートセンター支援業務」を宮城県県の委託により実施してきました。その中で見られた子どもの様子について報告します。

2011年2月～4月 避難所に子どもの遊び場を設置、スタッフを派遣。

- ・小学生であっても親から離れられない子どもがいた。
- ・寂しさ、不安を抱えている。
- ・ときどき奇声をあげる子どもがいた。
- ・津波ごっこ・地震ごっこが見られた。
- ・暴力的な行動・言葉づかいが見られた。
- ・スタッフに甘える、スタッフを振り回したがるなど、自分を見てほしいという気持ちが強かった。
- ・スタッフに頼りたい反面、いずれいなくなってしまう人だから心を開かない場面もあった。
- ・会話の中で「友達が続いた」などという言葉をさらっと使われてスタッフがとまどった。

震災後にチャイルドラインにかかった電話 (プライバシーに配慮し、再構成しています)

- 震災直後
- ・地震、津波、余震が怖い ・家が壊された ・家族、親しい人がなくなった ・通学できるか ・食べるものがない
 - ・あそべない、部活動が出来ない ・避難所にいる、着替える場所もない ・避難所はプライバシーがない、狭い
 - ・地震後家族となかなか会えなかった ・放射能は大丈夫か ・テレビで震災の様子を見ると悲し気がする
 - ・自分も死んだらよかったのかと思う

- 震災から半年～2年
- ・避難所に入れた人は支援物資をもらっているのにうちは壊れた家の2階に住んでいて何ももらえない
 - ・父の仕事がなくなった、毎日両親が喧嘩している、家計のことを考えて通学をあきらめる
 - ・仮設に4人で住んでいる、息がつまりそう、・学校が統合して人数が増え、クラスが窮屈になった
 - ・地震の日のことを思い出す、避難所はとてつもないやだった、・余震が続いて不安



宮城県の子どもの現状

- ・命を奪った子ども 327人 行方不明 35人 (平成24年8月31日現在)
- ・子どもへの暴力：取材の過熱、勇断ボランティアからの性被害、不審者の子ども撮影・避難先でのいじめ・虐待
- ・通まない学校の復旧、教育予算不十分：被災学校の閉校、通学に時間がかかる、教材、備品が整えられない
- ・住宅事情：仮設住宅は宮城県内15市町に406団地 22,095戸 (H24年12月28日 宮城県)
- ・遊び場、居場所がない：校庭、公園は仮設が壊つたなど遊び場がない、仮設では専ら着いて勉強できない
- ・貧困：保護者の就労が回復しないため、学校納付金が納められない、子どもが通学をあきらめる
- ・本音を言えない子どもたち：大人が回復していないので子どもは元気にふるまっている、忘れられない記憶に悩む子どもたち、子どもの中に蓄積される「怒り」

今後の課題と提案

震災後2年を経過し、復興の兆しが見え始めているところもありますが、復興住宅の建設は遅まず、仮設住宅入居の期間延長の方針が打ち出されるなど、この2年間我慢を強いられてきた被災者にとっては希望の灯がどんどん遠ざかるような思いにとまわれることも多くなっているのではないのでしょうか。

子どもたちは、大人が元気がないと、自分たちがしっかりしなければ、とか、心配をかけるまいとして明るく振る舞っています。しかし、大人も子どもも我慢の限界を超えたときに、どのような状況になるのが懸念されます。

阪神淡路大震災の例をみても、2年を過ぎてから子どもの問題が噴出したといえます。今後、子どもたちに対して、できるだけのことをしていかなければなりません。

まず必要なことは、子どもが話せる環境と、遊ぶ環境をつくることです。子どもたちはもともと生きる力を持っています。それを阻害する要因は、子どもを否定したり、虐待したり、暴力をふるうなど、子どもの尊厳を傷つけ、人権を侵害する行為です。子どもの話を良く聴き、信じて、待つことで、子どもたちはきっと本来の姿を取り戻していくことでしょう。

そして、忘れてはならないのが「遊び」です。遊びには、時間、空間、仲間の3つの「間」が必要と言われます。遠距離通学で時間を奪われ、仮設住宅で空間を十分持てず、避難生活で仲間と離れる、このような経験をしている子どもも多いと思われる。たとえば、学校の中におびやかなスペースでもよいので、子どもが自由に居られる空間をつくれませんか。仮設住宅の集会所の片隅に子どもの居場所をつくれませんか。子どものために場所を貸してくれる行政や企業はないでしょうか。もし、そんな場所があれば、私たちNPOが支援者を養成したり、必要な備品をそろえたりすることはできます。

一緒に子どもの未来を考えていただける方からのご連絡をお待ちしています。

ひとりでも多くの子どもの声を聴くために チャイルドラインへのご支援をお願いします！

- ① ご寄付いただける場合：郵便振替口座 02280-5-49458 加入者名「チャイルドラインみやぎ」へご送金
- ② 支援会員になっていただける場合：年間1口2000円 上記口座へ、支援会員と口座をご記入の上ご送金
- ③ 電話受け手として活動していただく：春・秋2回実施される子どもサポーターズ養成講座を受講していただきます。
- ④ イベントボランティアとして活動していただく：子どもにチャイルドラインを知らせるイベントを随時行う際にお子さんいただけます。 ※③④についてはチャイルドラインみやぎ宛てお問い合わせください。

<p>チャイルドラインは 全国どこからでもフリーダイヤル！！ 電話番号は 0120-99-7777 受付時間 月～土 午後4時～9時 全国フリーダイヤルに関するお問い合わせ 特定非営利活動法人チャイルドライン支援センター 03-5312-0990</p>	<p>特定非営利活動法人チャイルドラインみやぎ 〒981-0054 仙台市青葉区川平 1-16-5 スカイハイツ 102 (開館時間：平日15～20時) Tel & Fax : 022-279-7210 E-mail : cline@viola.ocn.ne.jp URL : http://www2.ocn.ne.jp/~cniyas/</p> 
---	--

